奥武蔵　谷津川本谷

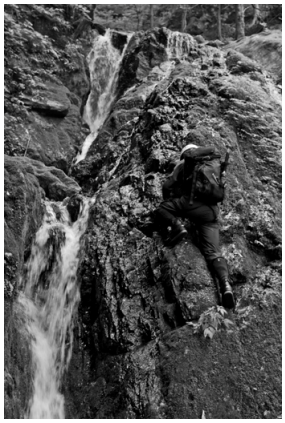
2011 年 ７月 ３日
Ｌ熊崎、平本（記）

　私にとって奥武蔵という場所は武甲山の姿もあり、何か暗いというか、マイナーエリアの感が強いが、この沢からは小さいながらも手強そうなゴルジュや滝郡があり、遡行意欲を掻き立てられた。実際に行ってみると水量は少ないものの、小滝でも気が抜けないものが連続し、特にゴルジュは山の高さに比して深く切り立っており、充実感のある沢登りが楽しめた。

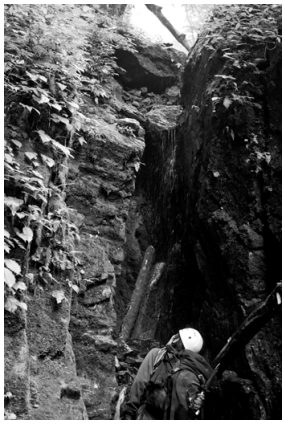
７/３(土)

前夜に入渓点で落ち合う約束がお互いに到着が遅れ、テントも張らずに車中での仮眠。すぐに空は白けて眠い目をこする。

７/４(日)
二度寝して朝寝坊。７：４５に鹿の湯跡から沢へ降りる。暫くは藪が多く、気分が出ない。



１０ｍ二条滝、５ｍ二条滝と良滝を迎え、８：４０頃地獄沢を分ける辺りから渓相が良くなってくる。
１５ｍ二条逆くの字滝は滑って注意が必要。
９：１５、七滝沢が６段６０ｍ？で右岸から出合う。中の二又を形成する優雅な滝だ。この辺りから両岸がやや高まり、第一ゴルジュの様相。
問題の２０ｍ３段滝は右岸から巻いた。
落ち口付近で A0 ありの４級ということだが、手がかりが乏しく、古いスリングに頼るのは危険との判断。第一ゴルジュは右岸から滝２－３本を巻き、中間部に懸垂で降りた。残置ロープもあったが、古く信用できない。
１０：２０、ゴルジュを抜けると１２ｍ逆 S 字滝。S 字部分はぬめり、落ち口左のチョックストーンから抜けるが、やや悪く、チョックストーンもぐらついて危険。
この付近は水量こそ少なめだが、渓相は苔むした緑が美しい。
１１：１５、三又。
１１：３０、奥の二又。沢はやや右に折れ、両岸が高まりを見せてくると、いよいよ第二ゴルジュ帯を迎える。
WEB 等の情報では『入ったらエスケープ不可』などとの脅し文句があったので慎重に観察し、突入を決める。実際に入ると、エスケープは可能で、ゴルジュ内の滝はさほど難しくも無かった。
１２：４５、ゴルジュ出口の１５ｍチョックストーン滝（実際は８ｍ位）も難しくは無かったが、岩が脆くランニングがとれないので怖いことと、冷水シャワーで消耗させられる。



７/４　鹿の湯跡入渓７：４５～地獄谷８：４０～第一ゴルジュ９：１５～三又11：１５～奥の二又１１：３０～第二ルンゼ終了１２：４０～登山道到達１３：００～入渓点帰着１６：４５

地形図：三峰、秩父

難しくは無いと言っても、それはセカンドで登ったから言えることで、リードした熊ちゃんは踏ん切りがつき難かったろうと思う。
核心の滝を越えると、ゴルジュは緩まり、ガレ敷きの浅いルンゼを少し詰めると支尾根上の斜面に出、ものの１０分程度で登山道に出る。藪漕ぎは無い。
熊倉山頂上付近はすっきりとした美しい林となっており、好もしい雰囲気。
後は城山コースをひたすら歩けば、一部林道工事でわかり難い部分もあるものの、問題なく入渓点まで戻ってこられる。

この沢は交通の便が悪いことと、エリア的にマイナー感があるので、入渓者は少ないようだ。水量は少ないが、山の高さの割りには谷には深さが感じられる。
飽きるほど小滝があり、どれも登れるようだが、意外とヌメリ、見た目よりも手こずる。
小粒だがピリッとした沢とでも言えようか。